



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1
Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会
印刷：小野印刷

■ 第198号 ■

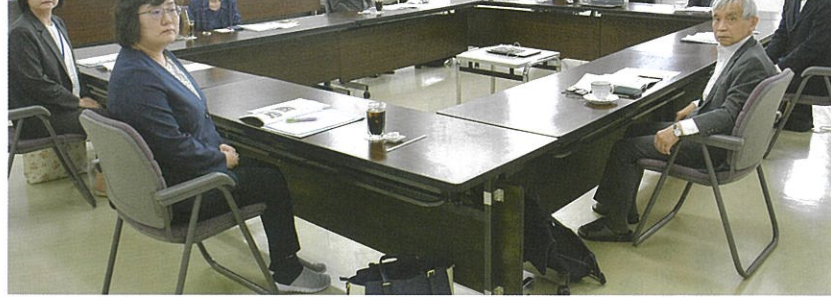
株式会社ファルマ第38回通常株主総会

「職員・患者・利用者の満足度を上げ、地域とのつながりを大きく広げよう！」

株式会社ファルマ 代表取締役 崎野 修

5月28日(水)に第38回株式会社ファルマ通常株主総会が本社大会議室で開催され、第6号議案まで全会一致で承認されました。今回の株主総会の特徴として、厳しい経営状況の中で経営課題を明らかにするとともに、今後の超高齢化社会を迎える中でファルマが更に成長していくための方針と中長期計画を提起するとともに、経営理念の実践として職員・患者・利用者満足度を上げて地域に必要とされる薬局づくりを目指すことをスローガンとして掲げました。

第1号議案では各事業所から2024年度の活動報告があり、調剤報酬料改定への対応を中心としながら、全ての職場が処方箋獲得や利用者増、経費節減など経営改善に向けて知恵を絞って取り組んできたことが報告されました。特に出前講座や健康教室など地域活動に多くの職員が参加し、地域の方々とのつながりや認知が広がったことが大きな特徴となっています。社内委員会では新たに薬剤師確保と養成、スキルアップや医療整備など幅広いテーマ



株主総会の様子

第2号議案では2024年度決算報告があり、毎年薬価改定の影響や処方箋枚数の減少に加えてファルマ弘前薬局の基本料減算により事業収益が大幅に減少したのに対して、各職場の経費節減の効果によって前年度並みの経常利益と必要利益が確保できたことが報告されました。このことは全職員の努力による結果であり、職員参加経営の成果といえます。

第3号議案では2025年度事業方針について提起され、薬

価差益に頼らない経営構造への転換に向けて処方箋獲得や対人業務の強化を柱にしながら、DX化推進に向けた設備投資や在宅業務の集約化等の事業計画について承認されました。最後に2025年度は参議院選挙があります。軍事費増大を目的に社会保障の切り捨てを続ける今の政治を変え、必要な診療報酬を勝ち取るために全役職員が一致団結して頑張ることを決意して閉会となりました。

6月4日(水)の社員集會では、崎野社長による現在のファルマの経営状況、各職場の代表から今年度の課題や具体的な目標についてお話がありました。

基幹薬局となるファルマ弘前薬局では、大幅な処方箋枚数減少が会社全体の経営を大きく圧迫している状況を再確認し、近隣医療機関からの処方箋を逃さない取り組みはもちろん、新規顧客獲得のため、患者様のニーズに合ったサービスの提供をさらに探求しなければなりません。また、今年度は弘前調剤センターを、全国でも近年増加傾向の在宅特化型薬局へと大きな転換を迎えます。それに伴い各薬局が担当していた在宅をスムーズに弘前調剤センターへ移行できるよう関係各所へと働きかけしていきます。これからは本格化する団塊の世代の高齢化に対応し、在宅医療がとも重要な役割を担います。

薬剤師の仕事は、対物から対人業務へとまします。シフトしていても、外来業務でも、患者様の服薬管理が不安な場合はご自宅まで確認し服薬サポートする

ことでもあります。今後、患者様や国から求められる薬剤師像と、自分たちの理想とする薬剤師像が乖離せぬよう患者様の目線に立ち、常に最新の知見で還元していければと思います。



崎野社長より決算報告と今年度の事業方針が示されました

安心して利用できる薬局づくりを目指す

6月4日(水)、社員集會が開催されました。崎野社長より決算報告と今年度の事業方針・予算が示され、続いて各職場から計画事業の発表がありました。今回の社員集會を通じて、事務職員として「安心して利用できる薬局づくり」のために何ができるかを深く考える機会となりました。正確な実務と確実な請求を通して事業に貢献し、利用者様から「また利用したい」と思っていただけのような、良い口コミが広がる薬局を目指していきたいと強く感じています。

今年度のスローガン「職員、患者、利用者の満足度を上げ、地域とのつながりを大きく広げよう！」を胸に、民医連事務職員の3つの役割を日々の業務で実践しながら、いのちを守る立場として、政治状況の変革に向けた選挙活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

藤代薬局 三上 菜美

対物から対人業務へ

ファルマ弘前薬局 薬局長補佐 佐藤 武志

「安心して利用できる薬局づくりを目指す」

沖縄・辺野古の現状と私が学んだこと

ファルマ弘前薬局 三上 心乃音

5月19日(月)〜21日(水)に沖縄で行われた、辺野古連帯行動に参加しました。たくさんの方の学ばせていただいた中で特に印象に残っていることが、1日目の学習講演での、沖縄における日米地位協定の位置づけが日本国憲法よりも上だという言葉です。例えば、協定により米兵の基地内での事件や公務中の事故について日本は裁判権をもつことができず、調査や取材も規制がかかります。米軍にかなり有利な協定になってい

て、驚きました。他の国もこの協定をアメリカと結んでいますが、交渉を重ねたことで米軍と対等な関係を維持しています。協定の内容を一刻も早く改善していくことが重要だと思いました。2日目は辺野古の座り込みに参加し、現地で毎日抗議している方たちと一緒に基地建設反対を訴えました。土砂搬入を阻止しようと、警備員の前に座り、日々戦っている方たちがいるのだということを感じました。最終

日は糸数アブチラガマに実際に入り見学しました。中は真っ暗で、懐中電灯をつけないと何も見えません。外からは爆撃の音、中は暗闇で、不安感は相対的なものだっただろうと思います。3日間ぎっしり中身の詰まったスケジュールでしたが、その分沖縄の歴史や現状をしっかりと学ぶことができました。これから民医連活動をしていく上でも今回の経験が役立つと思うので、参加できてよかったです。



新基地建設反対！



平和への願いを込めて

薬剤師の専門性を生かし、人と人のつながりを大切に

ファルマ弘前薬局 薬剤師 下山 蒼生

5月17日(土)、18日(日)に行われた全日本民医連2025年度新入薬剤師研修会に参加しました。初日はアイズブレイクから始まり、民医連綱領の学習、SDH(健康の社会的決定要因)についての講義を受けました。特に武田裕子先生のSDHの講演では、経済状況や教育環境などが健康に大きな影響を与えることを知り、医療の枠を超えた視点の重要性を実感しました。医療的なアプローチをするだけではなく、患者様の社会的背景にも目を向け、服薬アドヒアランスの向上に努めていきたいと思っています。

2日目は、先輩職員の方々の経験談を聞き、グループワークでは薬局・病院薬剤師の垣根を越えて意見交換を行いました。みやぎ保健企画つばさ薬局の金田早苗先生による講演では、東日本大震災当時の医療機関や薬局がどのような

な状況に置かれていたのか、そして被災地の患者様がどのような困難を抱えていたのかを、実体験をもとにお話しいただきました。電気のない中で服薬管理、避難所での体調変化、医薬品の確保や情報伝達の難しさなど、薬剤師としての専門性をいかしながら地域に寄り添い続けた姿勢に深く心を打たれました。

今回の研修を通して、薬剤師としての専門性だけでなく、人と人とのつながりや、医療と社会との関係についても深く考える機会となりました。今後は他職種との連携や地域との関わりを大切にしながら、自分にできることを常に考え行動できる薬剤師を目指していきたいと思っています。

研修に参加したふたり(右:猪股薬剤師、左:下山薬剤師)



研修に参加したふたり(右:猪股薬剤師、左:下山薬剤師)

今の貧困について学び、考えた学習交流会

ファルマ弘前薬局 古川 碧人

5月17日(土)、花岡農村改善センターで開催された「青年職員対象学習会&交流会」に参加しました。初めにファルマ弘前薬局の中西さんから「子ども食堂」について、青森保健生協組織部の三上さんからは「食料支援に関する取り組み」についての発表が行われ、子ども食堂や食糧支援の現状を詳しく聴くことが出来ました。発表を聴くことで自分が今までいた環境以外の情報を多く取り入れることができました。

次に、青森市男女共同参画プラザ「カダール」の館長の篠崎有香氏による「貧困を考えよう」ジェンダーの視点から」というテーマで講演が行われました。ジェンダー的な視点から子ども、ひとり親世帯の貧困についてのお話を聴くことができ、特に『日本の社会に対する体質改善』という言葉が強く印象に残っており、今の日本における文化の側面での課題を直に認識しました。

最後にグループ

ディスカッションがありました。発表や講演内容について参加者で話し合い、子ども食堂などの名前によって近寄り難さが出てくる可能性があるため、名前を変えることで様々な年代の困っている人が来やすいのではないかとという結論に至りました。その後の交流会では、屋外に移動しバーベキューを行い他の事業所の方との交流を深めることができました。今回の学習会では、自分は日本に住んでいる人間として何をすべきか、何を学ぶことができるかということを知ることができた貴重な体験となりました。

グループワークやBBQも楽しめました



グループワークやBBQも楽しめました

皆で課題を乗り越えていく

ファルマ弘前薬局 取締役事務部長 工藤 敏子

5月31日(土)青森県民医連第56回医師総会が開催されました。医療や介護をめぐる情勢が厳しくなる一方で、県連の医師集団を取り巻く課題も経営問題をはじめ多岐にわたっていることが報告されました。その中でも民医連で働き続けられる医師をどのように着せたいのか、近年専門研修以降の奨学生残留率が下がっていることも併せて報告されていました。

ワードを、メンチメーターを使用してリアルタイムで全体が共有しました。人間関係や仲間、家族の支えで頑張っている方が多く、大切にしていることはコミュニケーション、感謝、挨拶が多くを占めています。皆で頑張る共通項を確認し、皆で課題を乗り越えていく契機になった総会でした。

また、各種研修報告や新人医師紹介があり、多方面で医師が活躍されている様子も伝わってきました。最後にグループディスカッションを行い「なぜ、今ここで頑張っているのか」



現地参加した皆様

高い倫理観と専門職としての規範を意識したケアの実践

居宅介護支援事業所ファルマ 工藤 兼紀

5月24日(土)青森県民主医療機関連合会医療安全委員会主催の学習会が青森県総合社会教育センターにて「多職種で取り組む転倒転落防止対策と身体拘束の縮小」をテーマに、パラマウントベッド株式会社顧問杉山良子氏を講師に迎えて行われました。

学習会では、転倒防止を単に環境整備や抑制で

対応するのではなく、「なぜ転倒するのか」という視点から患者本人を中心に多職種でアセスメントし、組織全体でマネジメントすることの重要性が強調されました。そこには個人の尊厳を守る倫理的配慮が不可欠であり、「転落防止」抑制とならないよう、組織の理念や倫理観に基づいた判断基準やマニュアルの整備が必須とされました。

一人ひとりの生活と心に寄り添う支援

居宅介護支援事業所ファルマ 主任 伊勢 充

5月28日(水)全日本民医連人権と倫理センター主催によるケアの倫理連続学習会「傷つきやすさと傷つけやすさからケアを考える」というテーマで、大阪大学、村上靖彦先生による学習会がオンラインにて行われました。

西成区での子育て支援の経験を元に、実際の当事者の声が多く盛り込まれた内容でした。民医連の掲げる「いのちの平等」や「無差別・平等の医療・介護」の理念と深く響き合う内容であり、改めて「ケアとはなにか」を考えさせられました。ケアとは

単に支える行為ではなく、「傷つきやすさ」と「傷つけやすさ」が共存する関係性の中で成り立つこと、そして支援者もまたケアを必要とする存在であることが強調されています。

この双方向性は、患者様・利用者様を一方的な「受け手」とせず、常に対話と尊重の上に関係を築くという、民医連の「患者の立場に立った医療」に通じるものであると感じました。

また、効率や管理がケアを形骸化させてしまう危険性への警鐘も、民医連が大切にしている「人権を守る

ていくことの大切さを、改めて胸に刻む機会となりました。今後の実践にも、この学びを活かしていきたいと思えます。

目次

- 1. ケアをする・ケアを受け取る、傷つきやすさ・傷つけやすさ
- 2. 家族ケアのなかにしるびこむ暴力と資本主義
- 3. プロのケアのなかに忍び込む暴力
- 4. ケアを管理から解放する
 - ・効率からの解放
 - ・居場所とアウトリーチ
- 5. ケアのすき間としての孤立
- 6. まとめ:(生きるスペース)をつくる

ケアの倫理学習会の内容



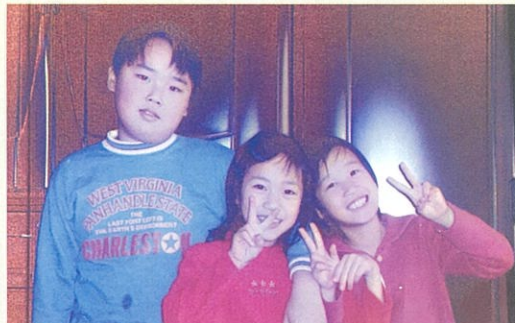
学習会の様子

7才のわたし

ファルマ弘前薬局 薬剤師 外崎 佳奈

おそらく7歳か8歳くらいの写真だと思うのですが、小学校に入学して兄弟3人で撮った写真です。上から兄、姉、私の三人年子で、近所にあまり同世代が多くないこともあり、ほとんど友達のような感覚で遊んでいました。両親共働きで家にいないことも多かったので、3人でなわとびをしたり、家でアニメを見たり、誰が早く宿題を終わらせられるか競争したりしていました。小さい頃はお菓子の数やお手伝いの回数などくだらないことで喧嘩することも多かったのですが、今になって思うと、何でも話せる距離感の兄弟がいてよかったと思います。

今、兄は県外で働いていますが、姉は弘前で働いているのでよくご飯に行ったり旅行に行ったりしています。何年も前から姉と富士急ハイランドに行きたいと話しているのですが、なかなかタイミングが合わずまだ行けていないので今年こそは行けたらいいなと思っています。兄も今年青森に戻ってくる予定なので、兄弟3人でもどこか出かけられたらいいなと思っています。



なかよし3人兄弟

うまれました

4月26日にファルマ弘前薬局の熊澤薬師に元気な男の子(春馬くん)がうまれました。

おめでとうございます。

春馬くん

青森県を守るために

本部 課長補佐 工藤 由希子

5月18日(日) 弘前文化センターで核燃・だまっちやおられん津軽の会第43回市民講座が開催され、青森県出前トークとして「青森県自然・地域と再生可能エネルギーとの共生制度」についてお話しいただきました。「共生制度」とは、再生可能エネルギー事業をどの場所で行えばよいか、税と合わせて考えていく制度です。県内を保護地域、保全地域、調整地域の3地域に区分し、その中で自然環境等と再生可能エネルギーとの共

生が図られると知事が認めた区域(共生区域)で再生可能エネルギー事業を行う場合は非課税、それ以外で行う場合は「再生可能エネルギー共生税」を課するというものです。青森県には多くの自然的歴史的建造物等があり、これらを守りながら再生可能エネルギー事業を進めていくための条例ということですが、原発建設の中止と、すでに破綻している核燃料サイクル事業からの撤退を併せて進めるべきだと私は思います。



青森県自然・地域と再生可能エネルギーとの共生制度について学習しました

写真紹介

5/14

五所川原市教育委員会社会教育課へ出前講座

5月14日(水)五所川原市教育委員会社会教育課主催の出前講座が開催され、「薬の飲み方について」をテーマにファルマ 一ツ谷薬局の



多くの方が参加してくれました

西沢薬局長が講演しました。参加者は130人で「同じ薬でも薬局によって値段が異なることはあるのか?」など、他多数の質問がありました。

5/21 株式会社太陽で出前講座

5月21日(水)株式会社太陽主催の出前講座が黒石市のさくらちとせハウスで開催され、「便秘薬の正しい使い方」をテーマに黒石薬局の成田薬剤師が講演しました。



勉強になったとの感想がありました

参加者は11名で「状態に応じて下剤を使い分けることが大事だと知れて勉強になった」と、感想をいただきました。

5/28 黒石診療所へ出前講座

5月28日(水)健生黒石診療所主催の出前講座が開催され、黒石薬局の吉田薬剤師が「糖尿病・インスリン薬について」をテーマに講演しました。



事例について情報共有しながら講義をしました

参加者は10名で、看護師と最近の事例について情報共有をしながら講義をしました。

5/25 りんご広場集会和パレード

5月25日(日)、憲法9条守れ戦争法廃止!市民集会和パレードが弘前駅前りんご広場で開催されました。ファルマから6名の参加でした。



ファルマから参加の皆さん